

いちほまれ

いちほまれ



JA福井県

【幼穂形成期以降の水管理について】

田植え後の生育は概ね順調に経過しています。今後は幼穂形成期から出穂期を迎えるため、生育状況を確認しながら穂や水管理を適切に実施し、高温による品質低下を防ぎながら、高品質・良食味ないちほまれの生産を目指しましょう。

1. JA生育調査状況(7月15日現在)

①JA全体(移植)

年度	移植日 (平均)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色
R8	5/20	73.0	529	4.1
R7	5/18	79.7	540	4.1

【前年比】

■草丈:短い ■茎数:同等 ■葉色:同等

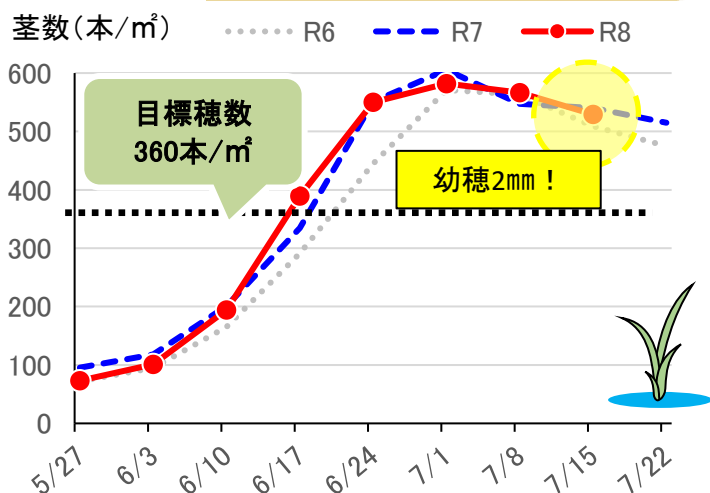
② 気象状況:7月9日～7月15日(平年差)

- 平均気温 :かなり高温 (Δ3.2℃/日)
- 降水量 :無し
- 日照量 :多照 (Δ3.4時間/日)

③ いちほまれの生育状況

幼穂形成期に入りましたので、生育状況を確認し、間断通水を開始しましょう。

2. 茎数の推移について(7月15日現在)



勝山地区 5/17移植

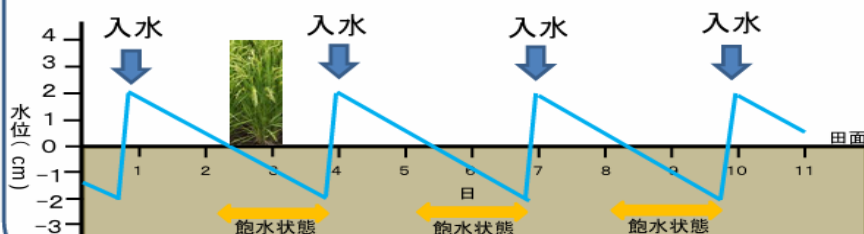
3. いちほまれの今後の管理について

○間断通水の実施

・幼穂形成期以降は、稲が最も水分を必要とする時期となります。乾燥すると養水分の吸収が妨げられ、高温の影響を受けやすくなります。幼穂形成期から収穫直前までは、間断通水を行い、土に水分と空気が供給されるように管理しましょう。養水分を吸収する土壌表層の「うわ根」と呼ばれる細い根は、乾燥すると消失しやすいため、足跡に水が常に溜まる程度の水管理を継続して行いましょう。

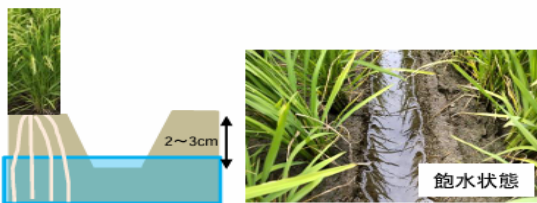
・フェーンによる高温の際には、深水管理を実施し、フェーンが過ぎたら強制落水し水を入れ替えましょう。

○こまめな間断通水のイメージ



○飽水状態のイメージ

水田内の溝や足跡に水が残る程度まで水位が減少してから入水する



ブランド米「いちほまれ」のお問い合わせは、担当営農指導員までお願いします。